

平成28年7月13日 埼玉県立大学

三郷市との連携プロジェクトの提案

ー在宅医療・介護多職種連携研修プログラムの開発(仮称)ー

1. 研究開発センターの設置(本年4月)

- 研究開発センターでは、当面、地域包括ケアシステムをテーマとし、県内自治体に対する支援も念頭に置きつつ、様々な研究プロジェクトに取り組んでいく方針。

2. 「在宅医療・介護の多職種連携」の重要性

【地域包括ケアシステムの中核】

- 可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、
 - ① 住まい、② 生活支援・福祉、③ 医療、④ 介護、⑤ 予防の体制を構築
 - ⇒ 在宅医療・介護の体制整備は、その中核
- しかし、全国各地の地域でも、多職種間における円滑な意思疎通が課題。三郷市での在宅医療・介護推進の機運の盛り上がりは、画期的
 - ⇒ 本プロジェクトにより、三郷市の在宅医療・介護連携推進協議会を支援。また、その成果を、一つのモデルとして、全国に情報発信できる可能性。

【在宅医療・介護の体制整備のために必要なこと】

- ① 担い手の確保 ⇒ 在宅診療施設、多機関・多職種の参加
- ② システムの整備 ⇒ 多職種連携のためのルールづくり、拠点の整備等
- ③ システムを機能させるための環境づくり ⇒ 顔見知りになるにとどまらず、意識を根底から改革

※「多職種」とは

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士等の医療関係職種
 社会福祉士、介護福祉士等の福祉関係職種
 ケアマネジャー、地域包括支援センター、行政機関、民生・児童委員、NPO等

3. プロジェクトのイメージ —在宅医療・介護多職種連携研修プログラムの開発—

プロジェクトの内容や進め方については、三郷市及び三郷市医師会等と相談の上、決定。

(1) 進め方(平成28～29年度) (イメージ)

- | |
|--|
| ① 行政、医療・福祉の多職種及び本学教員からなる検討会を組織し、研修プログラムを作成 |
| ② プログラムに基づき、研修を実施 |
| ③ 研修の効果を検証し、プログラムを見直し |
| ④ 報告書(マニュアル等)にまとめ、公表 |

(2) 研修の内容(例) ※要相談

- 主な職種(医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、介護福祉士等)と行政・地域包括支援センター職員、本学教員との意見交換 ⇒ 課題の抽出
- 全体会議での講義等を通じた目標の共有
- 小グループ(多職種で構成)に分かれての事例研究
- 地域の実情に応じた情報共有のあり方の検討(例:連携シート等)、地域住民への啓発 等

(3) 研修プログラムの普及

- 研修プログラムについては、HP等で公開し、県内自治体・関係者に普及させていく。

(参考) 本学における体制

1. プロジェクト参加予定者
医療、看護、理学療法、社会福祉等を専門とする教員(5名～)
2. 本学におけるこれまでの取り組み
教育 ⇒ 学部・大学院における多職種連携(IPW)教育の実施(全国的に有名)
研修 ⇒ 県内の自治体職員や様々な職種に対するIPW研修の実施(地域産学連携センター) 2

(参考) 柏市の「在宅医療・介護推進のための多職種連携」の会議体制

地域包括支援センター(地域ケア会議)

10病院会議

・院長会議
・MSW会議

在宅医療・介護多職種連携協議会

・多職種連携ルールの作成
・行政施策への反映

柏市、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会、ケアマネ協議会、地域包括支援センター、リハ連絡会、在宅栄養士会、介護サービスマネジメント協議会、社協、ふるさと協議会、千葉大学、東京大学、都市再生機構ほか

多職種連携・情報共有システム部会

・情報共有システムや多職種連携ルールについて議論
・必要に応じ個別症例の検討

研修部会

・在宅医療多職種研修、顔の見える関係会議等の計画・実施
・年間を通じて在宅医療・地域医療をテーマとした研修の企画運営

啓発・広報部会

・在宅医療を始めとする地域医療に関して、市民に向けた普及・啓発活動の方法の検討
・広報・啓発ツールの作成・実践

(注・県レベルの有識者も参加)

《多職種連携研修》 ※医師会と柏市が運営の中心

①多職種連携研修プログラム作成委員会、領域別WG、在宅医療研修プログラム開発委員会 …… 教材、ガイド作成
②在宅医療研修プログラム(5か月、在宅実地研修)、動機づけコース(2日)、指導者研修(1日)の実施

《顔の見える関係会議》

多職種が一堂に会し、ワーキングセッションを通じて、顔の見える関係づくりを推進し、連携体制を構築。

①全体会議(年2~3回) …… 多職種連携のコツを学ぶ、多職種の役割を知る、事例を通じた連携の具体
②エリア別会議(年1~2回) …… 地域資源把握、事例を通じた連携の具体

※地域包括支援センターと医師会等エリアの多職種が運営

(在宅医療の中核拠点)

柏地域医療連携センター

- ① 医師・多職種による在宅医療介護の連携支援 → ルール確認・普及、情報共有システム利用促進
- ② 在宅医療に係る研修 → 在宅医療・多職種連携研修会、顔の見える関係会議の開催
- ③ 入院患者が在宅に戻る際の調整 → 主治医・副主治医推薦等
- ④ 市民への啓発・相談

本学で支援